

令和5年（2023年）4月6日（水）

令和5年度1学期始業式 あいさつ

学校長 石川 裕之

おはようございます。3月の離任式ではお世話になった先生方とのお別れがありました。そして、先ほど新任式で、および本日はご都合でおみえにならない方を含め、23名の先生方を迎え、令和5年度がスタートしました。

あらためまして、昨年度に続き、今年度も学校長を務めることとなりました石川裕之です。よろしくお願いいたします。

さて、みなさんの、深志高校でのこれまでの2年間あるいは1年間はいかがだったでしょうか。充実していましたか。様々な行事が中止となった一昨年度に比べると、昨年度は元通りとは言えないものの、多くの学校内外の行事が実施されて、皆さんが澁澗と活躍する場面をたくさん見ることができて、本当に嬉しかったです。今年は更に以前の学校生活に戻る方向性が進むと予測されますが、すべてを以前の通りに戻せば良いということではなく、せっかくこの3年間様々な工夫をしながら学校生活を組み立てる中で、「修正する力」を身に付けてきたわけですから、その経験を生かして、修正すべきところは修正し、新たな時代に対応した学校生活や行事を構築して欲しいと願っています。そのことが、きっとこれからの時代を生きていくための力につながっていくことだと思います。

3学期の終業式に小平奈緒さんの言語化能力と哲学対話のお話を少ししましたが、小平さんのコーチのお話によると、彼女が参考としている本の一つ

に、河合隼雄さんという心理学者が書かれた「こころの処方箋」という本があるそうです。読んだことのある人もいると思いますが、私は知りませんでしたので、図書館で借りて読んでみました。55章からなる臨床心理士としての先生の見解には、「なるほど」「本当にそうなのかな」「よくわからないなあ」といった、個人的な感想はありましたが、その中から、なるほど、と思ったことを2つあげたいと思います。

「道草によってその道の味がわかる」という項目がありました。具体例をあげましょう。例えば、この中にゲームにはまってしまって、随分時間を無駄にしたなあ、とか、遅れを取ってしまったなどと思い、後悔している人はいないでしょうか。確かに大学入試という一つの目的に向けては、ゲームのやりすぎで、アドバンテージを失ってしまったかもしれません。そんなとき、成績が振るわずに自己嫌悪に陥ったり、コントロールできない自分に自信を失う人もいるかもしれません。しかし、その悔しさや辛さの経験は、大人になってから、ゲームにはまっていたり昼夜逆転をして苦しんでいる人々の気持ちができることにつながると思うのです。そうした人は、きっと良い学校の先生になるでしょう。また、失敗したと感じた経験を生かして、その後相当頑張ったりすることができるかもしれません。河合先生は全体として人生のつじつまが合ってくるとまでおっしゃっています。私も進路が決まらないまま鉄道や演劇や音楽や放浪旅行にはまっていた大学卒業後の時代を経験していますが、無駄のようにも思えたその時の経験は、心を豊かにしてくれて、現在の興味・関心にも役立っているような気がしています。

決してゲームにはまるのが良いことだと言っているわけではありませんが、自分の失敗に気づいたとき、その失敗をも自分の糧ともできるような

レジリエンスの力を身につけることができれば良いと思います。

もう一つご紹介したい項目は、「自立は依存によって裏付けられる」というものです。自立のためには依存から脱却しなければならない、と思いがちですが、依存することをすべてシャットアウトすると、それは孤立になってしまいます。親や先生や仲間たちに必要な依存を堂々とする、また仲間たちからの依存についても、可能な範囲で受け入れる、そうすれば自立した後も、親や先生や仲間たちと頼り支えあえる存在として生きていくことができるのだと思います。深志の自治もそうだと思います。先生たちは皆さんの活動を、しっかり見守っています。必要な支援はどんどん行いますし、危なっかしい時は手を出し口を出すかもしれません。ですから、皆さんも困ったときは自分たちで抱え込まずに、先生方に頼ってほしいと思います。

明日は入学式です。きっと初々しい1年生が入ってくることでしょう。皆さんには1年生の依存を受け入れる度量を持った上級生として存在してほしいと希望しています。また新3年生は、最終学年として充実した高校生活の中で、進路に向けた取り組みを本格化させてください。そして新2年生はまた、1年生と3年生を支えながら、自分も輝くことのできるような取り組みに打ち込むことを期待しています。

すてきな1学期に、そして充実した1年にしましょう。皆さんの幅広い才能が地道な努力により開花し、多方面で活かされていくことを期待しています。終わります。